

11月29日（火）の6時間目に、2年生を対象に思春期教室が行われました。真岡市の保健師さん2名、助産師さん1名の3人の講師の先生から、妊娠や出産などについてのお話をいただきました。思春期教室は、真岡市内の中学2年生に毎年行われています。

講話

大きく3つの内容についてのお話でした。

① 胎児の成長と出産

- ・いのちのはじまりは、針の穴ほどの大きさ
- ・出産は、お母さんだけでなく、出てくる赤ちゃんも頑張っている

② 赤ちゃんの特徴

- ・首がすわっていないため、だっこの際は注意が必要

③ 中学生の生活で大切にしてほしいこと

- ・他の人と体の違いを比べず、自信をもつ
- ・無理なダイエットや飲酒やたばこなど体の成長を妨げることは控える
- ・自分のきらいなところも見えてくる時期だからこそ、生きているだけで百点満点。



だっこ体験・妊婦体験

2クラスの代表の8名に、乳幼児の人形をだっこする『だっこ体験』と体におもりが付いたベストを着て過ごす『妊婦体験』をしてもらいました。



担任の先生からのエール

講話の最後に担任から2年生に向けてお話をしてもらいました。タイムリーな話題もあり、元氣のもらえる内容でした。

詳しくは2年生に聞いてみてください。



生徒の感想 一部抜粋

赤ちゃんが生まれるまでの大きさや大変さが良くわかりました。赤ちゃんをずっとだっこしているだけでもツラいののに、暴れたり、泣いちゃったりするので、お母さんってすごいと思いました。

妊婦体験をしている人を見て、妊婦さんに席をゆずったり、困っている時には助けてあげられるようにしたいと思いました。

生きているだけで100点満点なので、家族を大切に元気になりたい。

針で穴をあけたぐらいの大きさから、今の自分まで成長したのは改めてすごいと思った。

子供を産むことが思っていたよりも苦しそうだったので、お母さんはすごいなと思いました。お母さんにちゃんと感謝の気持ちを伝えようと思いました。

私たちはみんな45億分の1という確率の中で生まれてきて、20人近くが集まって生活できていることはすごく尊いことなんだと感じた。自分のことが嫌だと思いうこともあるけど、命をくれたり、一生懸命産んでくれた両親に、生きている中で「ありがとう」をたくさん伝えたい。



こどもは必ず生み育てないといけないの？と思ったあなたへ

妊娠や出産のお話を聞いて、そう感じた人はあなただけではありません。この疑問に、ある泌尿器科の医師は、以下のように答えています。引用元：養護教諭が知っておきたい男子の性教育ガイド

確かに子どもの誕生は喜ばしいことですが、だからといって、望んでも、環境が整っていても、誰もが子どもを授かることができるわけではありません。

子どもを産むということは、命の設計図である遺伝子を次の世代へ引き渡すことでもあります。1人の子どもには親の遺伝子の半分以上が引き継がれ、2人の子どもがいれば、親1人分の遺伝子を残すことができます。

では、子どもがいなければどうなのでしょう。実は、兄弟姉妹が2人、また甥姪が4人、あるいはいとこが8人いれば、子どもがいなくても1人分の遺伝子が引き継がれるのです。親戚中を見渡せば、確実にあなたの遺伝子のいくらかを持っています。だから、子どもがいなくても、「遺伝子を残すことができなくて申し訳ない」と引け目を感じる必要もありません。

昔は、親戚が近所に暮らしていました。そのため、すれ違う人の中には遺伝子を共有している人がいるので、周りの人に親切をしておけば、結局自分の遺伝子を労ることになっていました。今では移動距離が広がり、近所の親戚は少なくなりましたが、それでも周りには遺伝子を共有している人、その人につながりのある人がいるかもしれません。情けは人の為ならず。人に親切にすることは自分の遺伝子のためでもあるのです。大切なのは生きる姿勢です。自分らしく、人に優しく生きていきましょう。